2025 6・7・8

展示案内 —— vol.781

東京国立博物館ニュース

TOKYO NATIONAL MUSEUM NEWS

国宝のニューフェイス！

本館11室がリニューアルオープンしました。

今号のイチ推し!
国宝　伎楽面 治道

TNM

国宝の所蔵件数が90件に

2025年、伎楽面が新たに国宝に指定されました（→11ページ）。当館では、奈良県東大寺山古墳出土品以来8年ぶりの国宝誕生です。これで当館が所蔵する国宝の件数は合計90件になります。文化財保護のため、それぞれ展示日数を制限していますので、展示スケジュールは、当館ウェブサイトの年間スケジュール「国宝の展示予定」のページをご覧ください。

（市元塁）

【国宝とは】
美術工芸品や考古・歴史資料などの有形文化財のうち、特に重要なものが重要文化財に指定され、なかでも「世界文化の見地から価値の高いもので、たぐいない国民の宝たるもの」が国宝として指定されます。

「国宝の展示予定」のページ

本館11室がリニューアルオープン

本館1階にある日本彫刻の展示室として親しまれてきた11室は、2025年4月8日（火）に展示をリニューアルしました。入口では、高さ3メートルにおよぶ金剛力士立像（仁王）がお出迎え。にらみをきかせ、展示室を護ってくれているようです。奥に進むと、大型の作品を展示する展示台の向かいに、最新の展示ケースが3台並びます。高透過ガラスとケース内照明で、作品の細部や彩色までお楽しみいただけます。20年ぶりに刷新された展示室、ぜひともご覧ください。

（西木政統）

本館11室の展示風景

令和6年能登半島地震・令和6年奥能登豪雨復興支援事業「ひと、能登、アート。」文化財がつなぐ。Art for the Noto Peninsula

このたび当館では2024年に能登地域で被災された皆様に寄り添い心を癒し励ますため、東京所在の各文化施設と連携して支援事業を行います。所蔵する文化財を通して復興に向けた祈りのメッセージを届ける機会となるよう、多岐にわたるプログラムを計画しています。

詳細は決まり次第、順次当館ウェブサイトなどでおしらせします。

本事業に先立ち、2025年1月2日（木）から1月13日（月・祝）まで本館2室（国宝室）に設置した募金箱にいただきました御厚志、総額380,712円を2月17日（月）に石川県へ寄附しました。御支援いただいた皆様方に心から感謝申し上げます。

ユネスコ「世界の記憶」国際登録決定

特別企画

増上寺の三大蔵
―徳川家康寄進の三種の大蔵経―

本館特別1室　4月28日（月）～6月22日（日）

東京・芝の浄土宗大本山増上寺には、徳川家康によって寄進された「三大蔵」とよばれる三種の大蔵経が所蔵されています。中国の宋、元、そして朝鮮半島の高麗の時代に、木版によって印刷された仏教経典の一大集成です。

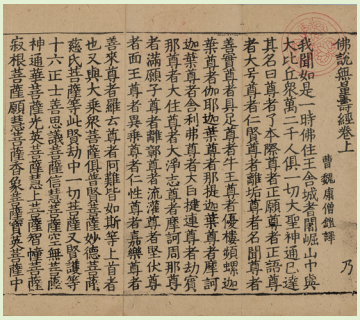
このたび、増上寺の三大蔵はユネスコ「世界の記憶」に国際登録されました。これを記念し、東京国立博物館、増上寺、浄土宗は、この三大蔵をご紹介する特別企画を開催しています。多くの方々に増上寺の三大蔵を知っていただく機会となれば幸いです。

（土屋貴裕・六人部克典）

南宋時代の貴重な数多の経典

◎宋版大蔵経 第一箱
（大般若波羅蜜多経 巻第一～巻第六十）
中国 南宋時代・12世紀刊　東京・増上寺蔵

宋版大蔵経（5356帖、94箱）のうち
1箱目の経箱には60帖が納められています



（部分）

徳川家との繋がりを表す大蔵経

宋版大蔵経 仏説無量寿経 巻上
中国 南宋時代・12世紀刊　東京・増上寺蔵

三大蔵には徳川家や増上寺の伝来を示す
三つ葉葵紋の朱印が捺されます

特　集

創建400年記念 寛永寺

本館特別1・2室　7月8日(火)～8月31日(日)

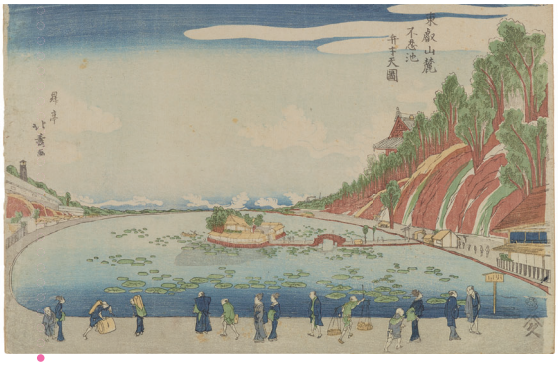
現在は上野の山の一角に建つ寛永寺。しかし、江戸時代までは不忍池まで含め上野の山全体が境内であり、徳川幕府、朝廷との関係が深く、当時の宗教、文化の一大中心地といえる存在でした。じつは当館も、寛永寺の本坊があった場所に建っています。このように、当館はじめ上野の山全体が寛永寺と深い縁で結ばれています。その寛永寺が今年創建400年を迎えます。

今回の特集では、400年の記念として、寛永寺とその子院に伝わる宝物を中心に、その歴史と、現在にも通じる、文化の集まる地としての姿をご紹介します。　(沖松健次郎)

不忍池前を行き交う様子は今と同じ

東叡山麓不忍池弁才天図
昇亭北寿筆　江戸時代・19世紀

かなり強調されていますが、
上野の山が小高い台地状になっている様子がよくわかります



写実的で均整のとれた造形

釈迦如来坐像
康乗作　江戸時代・寛文4年(1664)
東京・寛永寺蔵

徳川家4代将軍家綱が生母の13回忌に
際してつくらせた、端正な像です

特　集

金工動物園

本館14室　7月8日(火)～8月24日(日)

金属と動物。あまりピンとこない組合せかもしれませんが、金属を用いる工芸でも動物は重要なモチーフであり、さまざまな技術を駆使して動物の造形が制作されてきました。金属というと硬くて重く冷たいイメージですが、しなやかな質感や軽やかな表現を感じさせる品もあり、何より動物への温かな目差しを感じていただけることと思います。

暑い夏に、涼しい展示室で、ちょっとひんやりした動物たちの競演をお楽しみいただければ幸いです。　(清水健)

なが～い耳に思わずくぎづけ

大きな耳が特徴の兎をかたどった水滴は
書斎を和ませたことでしょう

耳長兎水滴
江戸時代・18～19世紀
渡邊豊太郎氏・渡邊誠之氏寄贈

座馬置物
四代龍文堂安之助作
明治6年(1873)
龍文堂安之助氏寄贈

今にも動き出しそうな柔らかなつくり

しなやかな肉体を感じさせる
体軀の表現が充実した馬の置物です

特　集

動物の仮面

本館14室
8月26日(火)～11月9日(日)

狂言面　猿
江戸時代・18～19世紀

親と子のギャラリー 仏さまのかたち
―写す、伝える、広がる―

平成館企画展示室　7月23日(水)～8月31日(日)

◎十二天図像(風天)
鎌倉時代・13世紀
原本：珍海筆　平安時代・12世紀

東洋館

妊娠と出産を守る神

タウレト女神像

エジプト　末期王朝時代末～プトレマイオス朝時代初頭・前4世紀頃
百瀬治氏・富美子氏寄贈

～12月21日(日)

3室

古代エジプトのファイアンスとよばれるやきものの女神像で、細部をよくみていただきたい一品です。カバの顔、ライオンの手足、ワニの尻尾がついており、猛獣のパーツをつめ込むことで力強さが表現されています。そして重要なのが、大きな乳房と張り出したお腹。妊娠中の女性の姿を表しています。タウレトは妊娠と出産を守る女神として、古代エジプトの家庭で信仰を集めました。この女神像は、子宝に恵まれたいという願いが込められた御守りだったと思われます。

(小野塚拓造)

霊力を宿した鉄剣

クリス

インドネシア ジャワ島東部　17～18世紀
J.C.ベイレフェルト氏寄贈

6月24日(火)～11月16日(日)

13室　アジアの民族文化
クリス　神秘なるインドネシアの武器

東南アジアの島々にはクリスとよばれる剣があります。この展示ではインドネシアのクリスを、ジャワ島やスラウェシ島などの地域ごとに紹介します。クリスの剣身は真っ直ぐであったり、蛇行していたりして、幾重もの刃文が表されています。クリスには神秘的な霊力があり、持ち主である男性を守護して、その人の威信を象徴すると信じられています。現代でも、インドネシアの男性が伝統的な正装をする際には腰帯にクリスを挿す風習があります。

(猪熊兼樹)

本館

奇抜で力強いデザイン

厚板 藍萌黄段槌車鱗模様

江戸時代・18世紀
奈良・金春家伝来

6月24日(火)～8月24日(日)

9室　能と歌舞伎　能「土蜘」に見る面・装束

三角形を連ねた模様は龍の鱗を表しているといいます。その上に大きくデザインされた車輪のような模様は、六方の先に槌のような器物をつけています。本来、この模様は田圃などに水をくみ入れる水車の模様だったと考えられます。水をくむ「柄杓」の部分が杭を打ちつける「槌」へと変化した模様なのです。槌車は実際には存在しませんが、強力なイメージが、武将や鬼神などの役の衣装に用いられる厚板の模様に好まれるようになったのでしょう。

(小山弓弦葉)

心の目でみる禅の教え

布袋図

興牧筆　室町時代・16世紀

8月19日(火)～9月28日(日)

3室　禅と水墨画―鎌倉～室町

「この指と～まれ」とばかりに指を立てているのは、七福神でおなじみの布袋さん。かわいらしい絵ですが、じつは禅の深い教えを表した作品です。布袋が指を差しているのは、絵の外にある上空の月。そして月は仏の教えそのものを、布袋の指はそれを説いた経典を示しています。つまりこの絵では、指ばかりみて月をみないこと、経典ばかり読んで仏法の真髄を理解しないことを批判的に表しているのです。ぜひ心の目で、布袋が指差す月を思い浮かべながらご覧ください。

(高橋真作)

黒田記念館

強烈な色彩表現

昼寝

黒田清輝筆　明治27年(1894)

7月1日(火)～9月28日(日)

黒田記念室

目に飛び込んでくるのは、色の束。草原でまどろむ女性の上半身が描かれています。彼女の肌や着物は、赤、青、黄といった原色を混ぜずにリズミカルに隣りあわせることで表現され、地面の草も、たたきつけるような筆致で描かれています。ところどころに浮かぶ黄色い斑点が、降り注ぐ強烈な日光を表します。筆触分割を過激な形で採り入れたこのような作品は、黒田がフランスから帰国した直後の一時期にのみ描かれました。　(吉田暁子)

法隆寺宝物館

平安貴族に流行した朗詠の楽譜

朗詠要集

鎌倉時代・正応5年(1292)

～7月13日(日)

第6室
書跡―古今目録抄と朗詠要集―

平安時代、貴族たちのあいだでは、漢詩や和歌に節をつけて詠う朗詠が流行し、ふさわしい詩歌を選んだ「朗詠集」が編まれました。宮廷歌謡の源家流・藤家流によって発展した朗詠は、中世以降に一時衰微しつつも伝承されました。法隆寺伝来の「朗詠要集」は藤家流朗詠の楽譜です。『和漢朗詠集』などから抄出した70首を漢字・片仮名まじりで記し、右側に博士とよばれる節の記号をつけています。この正応5年の古写本は、中世に受け継がれた朗詠を今に伝えています。　(六人部克典)

平成館

埴輪のように使われた壺

広口壺

香川県高松市 石清尾山猫塚古墳出土
古墳時代・3～4世紀
香川県寄贈

通年展示

考古展示室

高松市の西にそびえる石清尾山塊には、石を積んで築かれた古墳である積石塚が多く所在します。そのなかで最大規模を誇るのが猫塚古墳です。

この壺は焼く前に底に孔が開けられており、実際に壺として使うことはできません。儀礼のために、いわば埴輪のような役割で古墳の上に置かれました。

四国地方における3～4世紀の古墳文化の広まりを示すものとして長らく展示してきたものですが、今回が修理完了後の初めての展示の機会となります。　(山本亮)

特別展紹介〈平成館特別展示室〉

特別展「運慶 祈りの空間―興福寺北円堂」

9月9日(火)～11月30日(日)

幾度となく災禍に見舞われ、その都度復興されてきた奈良・興福寺。藤原不比等追善のために建立された北円堂諸像の復興を担当したのは、日本を代表する仏師・運慶とその一門でした。本展は、奇跡的に残る国宝仏像7軀を一堂に会し、運慶彫刻の頂点である鎌倉復興期の北円堂の内部を再現する初めての試みです。どうぞお見逃しなく。

(部分)

撮影：佐々木香輔

●弥勒如来坐像
運慶作
鎌倉時代・建暦2年(1212)頃
奈良・興福寺蔵

(部分)

●無著菩薩立像
運慶作
鎌倉時代・建暦2年(1212)頃
奈良・興福寺蔵

※会期中の展示替えはありません。

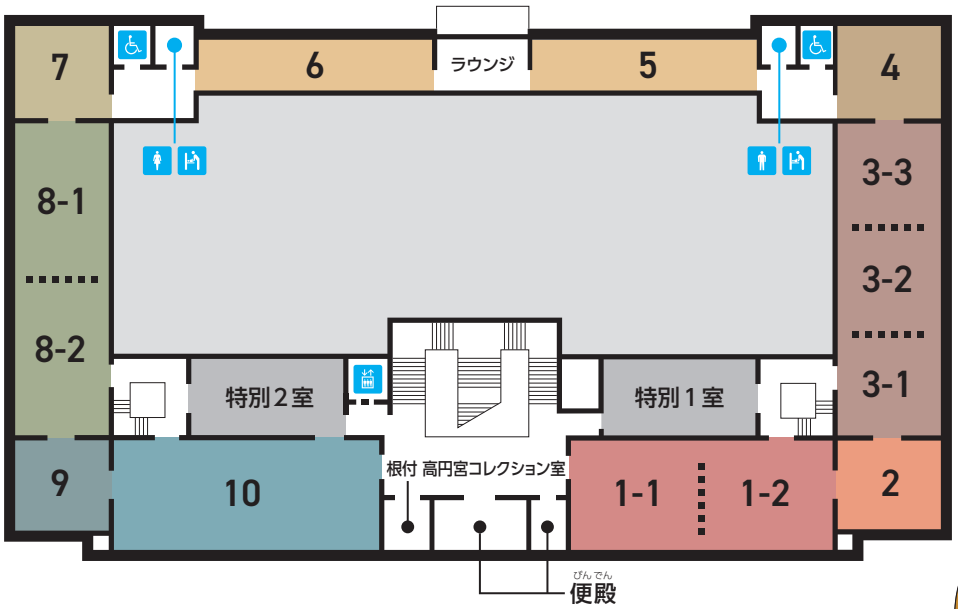
特別展「江戸☆大奥」

7月19日(土)～9月21日(日)

絵画や漆工、歴史資料など、さまざまな作品から大奥の歴史を解き明かします。大奥にまつわる、華やかな染織品も見どころのひとつです。五代将軍綱吉が側室の瑞春院(お伝の方)に下賜した刺繍掛袱紗をはじめ、武家女性の着物、大奥で演じられた歌舞伎の衣装などを展示します。フィクションではない、本当の大奥の華やぎをおみせします。

掻取 萌黄紋縮緬地雪持竹雀模様
天璋院(篤姫)所用
江戸時代・19世紀
東京・公益財団法人 徳川記念財団蔵
展示期間：8月5日(火)～8月17日(日)

小忌衣 浅葱天鵞絨地菊水模様
坂東三津江所用、高木キヨウ氏寄贈
江戸時代・19世紀

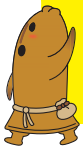


男性トイレ　女性トイレ　ベビーベッド　多目的トイレ　エレベーター

本館めぐり

日本美術の流れ

2階



2 国宝室

6/17(火)-7/21(月・祝)

●六道絵(阿修羅道)

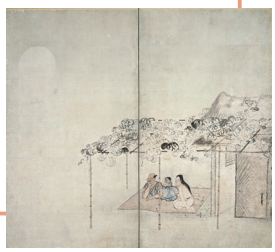
鎌倉時代・13世紀
滋賀・聖衆来迎寺蔵

7/23(水)-8/17(日)

●納涼図屏風

久隅守景筆
江戸時代・17世紀

夕顔棚の下で夕涼みをする3人の家族。久隅守景の代表作です



1-2 仏教の興隆
一飛鳥・奈良

7/8(火)-8/17(日)

紺紙銀字華厳経断簡(二月堂焼経)

奈良時代・8世紀
柳澤敬素氏寄贈

-9/28(日)

金銅鉢

奈良時代・8世紀

仏前に食物を供えるために用いられた金属製の大きな鉢です

1-1 日本美術のあけぼの
一縄文・弥生・古墳

-6/29(日)

◎竜龍鏡

古墳時代・4世紀
出土地不詳
團伊能氏寄贈

7/1(火)-12/21(日)

深鉢形土器

長野県伊那市宮ノ前出土
縄文時代(中期)・前3000～前2000年　徳川頼貞氏寄贈

縄文時代中期らしい、粘土紐を貼りつけた立体的な装飾が特徴です

3-2 宮廷の美術
一平安～室町

7/8(火)-8/17(日)

◎桃井直詮像

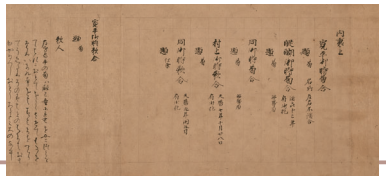
伝土佐光信筆
室町時代・15世紀

展示期間中、本図をはじめ、室町時代の肖像画を展示します

-7/6(日)

◎類聚歌合

伝藤原忠家筆　平安時代・12世紀



(部分)

3-1 仏教の美術
一平安～室町

-7/6(日)

維摩像

南北朝時代・14世紀

7/8(火)-8/17(日)

◎般若菩薩像

鎌倉時代・13世紀

単独で描かれた、おそらく現存する唯一の珍しい作例です

3-3 禅と水墨画
一鎌倉～室町

8/19(火)-9/28(日)

許由巣父図

「轜隠」印
室町時代・16世紀

(左幅)

-7/6(日)

杜甫詩

夢窓疎石筆　鎌倉時代・文保2年(1318)　個人寄贈

中世の日本を代表する禅僧の端整な書です

(部分)

5・6 武士の装い
一平安〜江戸

-8/17(日)

熊毛植二枚胴具足

江戸時代・17世紀

6/3(火)-8/24(日)

◎黒漆太刀
(重要文化財 太刀 大和物(号 獅子王)の拵)

鎌倉時代・13〜14世紀

獅子王の名を持つ太刀の拵。
すべて黒色でまとめた質実剛健な姿がみどころです

4 茶の美術

-11/9(日)

彫三島茶碗 銘 木村

朝鮮半島
朝鮮時代・16〜17世紀
広田松繁氏寄贈

日本からの注文による高麗茶碗。花文様の印と彫りの白土象嵌がみどころです

-8/17(日)

古染付竹文双耳水指

中国・景徳鎮窯
明時代・17世紀
広田松繁氏寄贈

7 屏風と襖絵
一安土桃山〜江戸

-7/6(日)

山水図屏風

十時梅厓筆
江戸時代・18世紀

満々と水をたたえた風景。跳ねるような筆さばきが特徴的です

7/8(火)-8/24(日)

厳島遊楽図屏風

筆者不詳　江戸時代・17世紀

(左隻)

8-1 暮らしの調度
一安土桃山・江戸

-8/3(日)

蝸牛水滴

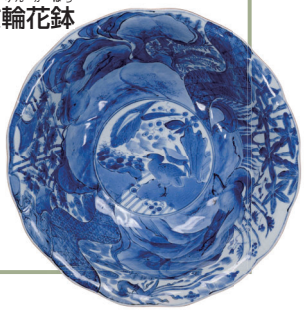
江戸時代・18〜19世紀
渡邊豊太郎氏・
渡邊誠之氏寄贈

蝸牛の体表や殻の質感まで丁寧に表現された銅製の水滴です

8/5(火)-10/26(日)

染付岩鹿水禽文輪花鉢

伊万里
江戸時代・17世紀



8-2 書画の展開
一安土桃山〜江戸

-7/6(日)

◎山中結廬図

浦上玉堂筆　江戸時代・寛政4年 (1792)

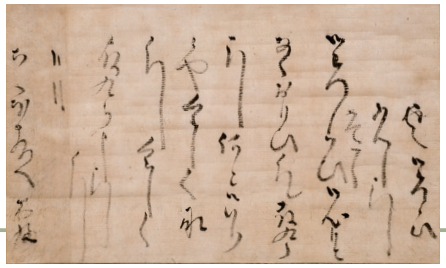
江戸時代を代表する文人画家・玉堂が、珍しく絹に描いた作品です

7/8(火)-8/24(日)

○書状(ちょほ宛)

徳川家康筆
江戸時代・元和元年(1615)

徳川家康晩年の書。ちょほは孫の千姫の侍女。千姫にむけて書かれたものといわれます



10 浮世絵と衣装 一江戸

浮世絵

6/17(火)-7/21(月・祝)

名所江戸百景・
市中繁栄七夕祭

歌川広重筆
江戸時代・
安政4年(1857)
三谷てい氏寄贈

7/23(水)-8/24(日)

東都名所・かすみが関

歌川国芳筆
江戸時代・19世紀

大名屋敷の並ぶ坂道と夏の青空を描いた、江戸後期の風景画です

衣装

6/24(火)-8/24(日)

帷子
黒麻地氷割紅葉文字模様

江戸時代・17〜18世紀

季節を先取りして涼感を誘う氷模様の夏の衣装

8/26(火)-10/13(月・祝)

振袖
白綸子地菊雲鳥蝶模様

江戸〜明治時代・19世紀

宮廷風のみやびな好みが感じられる蝶と鳥の模様

9 能と歌舞伎

6/24(火)-8/24(日)

唐織
紅淡茶段菊薄 蝶模様

江戸時代・18世紀

若い女性の役を演じる際に着用する紅入の唐織です

8/26(火)-10/13(月・祝)

長絹
紺地牡丹唐草蝶鳥模様

江戸時代・18世紀

朝鮮から舶載された珍しい織物で仕立てられた衣装です

本館めぐり

ジャンル別展示

1階

13-1 金工

-6/15(日)

金銅蓮華形磬
鎌倉時代・13世紀

6/17(火)-8/17(日)

◎白銅蓮池文磬
奈良県吉野郡天川村金峯山出土　平安時代・12世紀

左右の間地に鋳出された蓮池の文様が大変優美な仏具です

12 漆工

6/3(火)-8/17(日)

阿弥陀三尊彫木
漆塗鉦懸座
室町時代・16世紀

吉野宮蒔絵書棚
江戸時代・18世紀

多彩な素材の用法とすぐれた技巧。江戸時代の蒔絵の到達点です

11 彫刻

-7/6(日)

文殊菩薩立像
鎌倉時代・13世紀

7/8(火)-9/28(日)

◎日光菩薩坐像
京都・金輪寺、京都・高山寺旧蔵
奈良時代・8世紀

奈良時代の貴重な仏像。瑞々しい体つきや柔らかな衣の表現が特徴です

13-2 刀剣

-6/15(日)

◎雨下猛虎図鐔
奈良利寿　江戸時代・18世紀

6/10(火)-8/31(日)

●太刀 長船長光(大般若長光)
長船長光　鎌倉時代・13世紀

大般若経に由来する名を持つ長船長光の傑作。足利将軍家に伝来しました

13-3 陶磁

8/5(火)-12/21(日)

染付山水文大鉢
伊万里
江戸時代・17世紀　坂本一二氏寄贈

6/3(火)-8/3(日)

色絵波に三日月文茶碗
仁清、「仁清」印　江戸時代・17世紀

仁清の初期の作とみられる茶碗。デザイン化した波と三日月を描いています

16 アイヌと琉球
琉球の工芸

6/10(火)-7/21(月・祝)

楼閣山水螺鈿八角食篭

沖縄本島
第二尚氏時代・
18世紀末～19世紀

貝殻の輝きを生かした螺鈿技法で、楼閣や漁夫が表されています

6/10(火)-8/31(日)

チューカー(色絵蟹文水注)

沖縄本島　壺屋焼
第二尚氏時代・18世紀末～19世紀

15 歴史の記録

-6/22(日)

戯作絵兄弟

山東京伝著
江戸時代・
寛政6年(1794)刊
徳川宗敬氏寄贈

江戸の版元蔦屋重三郎と戯作者山東京伝がタッグを組んだ作品です

6/24(火)-8/24(日)

江戸城本丸等障壁画下絵 本丸大広間二之間

狩野晴川院養信筆
江戸時代・19世紀

(部分)

14 特集(→3ページ)

金工動物園

7/8(火)-8/24(日)

白熊置物

津田信夫作
昭和19年(1944)
第二復員局寄贈

動物の仮面

8/26(火)-11/9(日)

◎行道面 五部浄居天

和歌山・丹生都比売神社伝来
鎌倉時代・14世紀

18 近代の美術

6/10(火)-7/27(日)

五柳先生

横山大観筆　明治45年(1912)

7/29(火)-10/19(日)

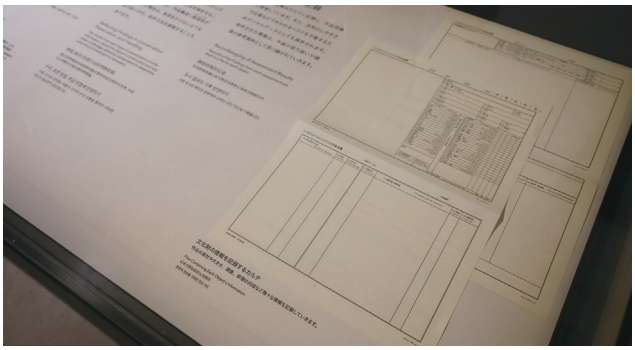
群鷺図額

加納夏雄作
明治25年 (1892)
シカゴ・コロンブス世界博覧会事務局寄贈

さまざまな色の金属を駆使して、鷺の群れを絵画のように表しています

17 保存と修理

病院で医師が私たちの体の状態や処方した薬などをカルテに記録するように、当館では文化財用のカルテをつくっています。カルテから文化財の調査や修理の記録をたどることで、文化財の弱い部分や複雑な構造を把握でき、今後の修理を適切に考えることもできます。文化財はどんな健康診断や治療をしているか学んでみませんか。



文化財用のカルテ。作品の情報、その状態、修理経緯などを記入し、文化財とともに伝えます

ミュージアムショップ

ミュージアムショップでは、当館の出版物をはじめ、収蔵品をもとにデザインしたミュージアムグッズを販売しています。

アクリルスタンド 金剛力士立像

各1,760円(税込)

(右から)阿形、吽形

「金剛力士立像」がアクリルスタンドになりました! ほかにもトートバッグやポストカードなどがあります。来館の思い出にいかがでしょうか?

特別4室 日本文化のひろば
(体験型展示スペース)

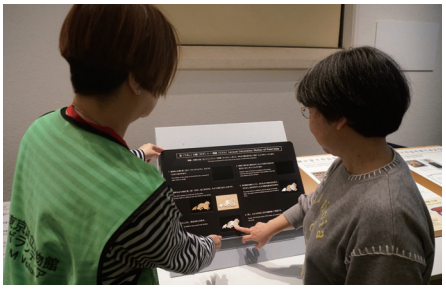
ぬりえコーナーでは、着物のデザイン画ともいえる、ひいながたのぬりえなど、季節や展示にあわせた当館オリジナルぬりえをご用意しています。色を塗ると自然と、何色にしようかと想像するため、模様など細部がみえてきます。ぬりえの後に展示作品をご覧いただくと新しい発見があるかもしれません。

ぬりえの様子

19 みどりのライオン
体験コーナー(教育普及スペース)

ボランティアの活動時間中は、漆のハンズオンツールを体験していただけます。漆の塗りや螺鈿の飾りのボードを触って、制作工程を知ることができます。YouTubeで関連動画(日英中韓)も公開していますので、あわせてご覧ください。

※7月以降は別の体験ツールに変わる予定です



ハンズオンツール体験の様子

学校教育の現場でも活用できる! 文化財のデジタルデータ

学校教育のさまざまな場面で、文化財のデジタルデータが活用されているのをご存じでしょうか。GIGAスクール構想*1の推進により、新しい学びのかたちが生まれています。各地の博物館・美術館が運営しているデジタルアーカイブを活用した「調べ学習*2」なども盛んです。

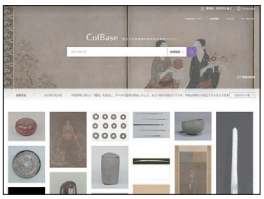
文化財デジタルデータを活用した授業の様子
(大阪府泉大津市立楠小学校 1年生 生活科)

文化財デジタルデータを用いた教材例
「金貨の写真から、品質保証のしかけを見つけよう」
(出典 S×UKILAM連携：多様な資料を活用した教材アーカイブ)

現在、数多くの博物館・美術館や図書館などが、所蔵資料の基本情報や撮影画像を、インターネットを通じて公開しています。これらはデジタルアーカイブとよばれ、以前よりも手軽に所蔵資料の姿をしることができるようになりました。当館の所蔵品についても、「ColBase(コルベース)：国立文化財機構所蔵品統合検索システム」というウェブサイトで調べることができます。

小学校と中学校ではひとりに1台の情報端末が配備され、インターネットを活用した授業や学習が当たり前になってきました。デジタルアーカイブに収録されている所蔵資料のデータは、教科書や副読本には掲載されていないものも多く、自由に利用できるので、先生方に教材作成の素材として活用されています。そして、「調べ学習」では、児童・生徒たちが、情報端末を用いて、膨大なデータが収録されているデジタルアーカイブを巡り、問いへの探究や新たな発見に挑んでいます。

今後、学校教育の現場で文化財のデジタルデータが活用される場面は、これら以外にさらに増えてくるでしょう。当館も、学びに安心して使えるデジタルアーカイブの充実に取り組んでいきます。 (阿児雄之)



ColBase：
国立文化財機構所蔵品統合検索システム
トップ画面

ColBase

*1 学校の情報機器整備やネットワーク改善を進めるための政府の取り組みのこと
*2 テーマについて資料や情報を収集・整理し、自らの考えをまとめる学習活動のこと

東博のお仕事

博物館の活動は、展示や催し物、文化財の調査研究や保存、情報アーカイブなど、多岐にわたります。
当館の多様な活動に関わる人たちの仕事を、さまざまな角度からご紹介します。

❺国際交流

楊鋭(やなぎ えい)
国際交流室長(博物館学)

国内外の博物館・美術館を訪ねるたびに、その国や地域の歴史と文化に魅了されます。

MOU締結により博物館における国際交流は持続的な連携・協力が可能になる

アメリカ・国立アジア美術館 チェイス・ロビンソン館長と
当館 藤原誠とのMOU締結 (2024年4月22日)

当館はこれまで展覧会や人的交流を通じて、国外の博物館・美術館と協力し、日本の優れた伝統文化や美術を海外に紹介してきました。昨年、「東京国立博物館2038ビジョン」(『東京国立博物館ニュース』2025年3−5月号に掲載)のなかで「日本と世界をつなげる博物館」という方針を掲げ、博物館における国際交流のビジョンを明確にし、海外の文化機関との連携・協力をさらに進めることにしました。そこで、これまで交流実績のある海外の博物館・美術館を中心に、14の文化機関(2025年3月現在)と新たな学術・文化交流および協力に関する覚書(MOU)を締結しました。従来培ってきた研究員同士のネットワークを大切にしながら、将来にわたって持続可能かつ組織的な協力体制を構築しました。

今年は、MOUを締結した文化機関を中心に、さまざまな交流を進めていきます。

中国・上海博物館陶磁研究部
馮澤洲副研究館員による学術
交流発表会を行いました
(2025年3月5日)

2025年6・7・8月号

今号のイチ推し！

国宝 伎楽面 治道

飛鳥時代・7世紀

金・土のみ公開　**法隆寺宝物館第3室**

異国人の象徴である高い鼻、
酔っぱらったような赤ら顔は、まるで天狗のよう

天狗の源流？ 大陸伝来の芸能「伎楽」に使われた仮面

顔全体を覆う大振りな仮面は、今日ではみることができない幻の芸能とよばれる伎楽で使われたものです。日本では、さまざまな仮面芸能が栄えましたが、中世から現在まで残る仮面は、能面を「面」とよぶように、顔の部分を覆うものが多いなか、伎楽面はさながらフルフェイスのヘルメットのようです。本作では失われていますが、本来は後頭部まで覆う部材があり、仮面全体を使って役柄に扮したようです。

伎楽は、飛鳥時代（7世紀）に大陸から伝来した仏教芸能で、聖徳太子が教習させたと伝えられます。釈迦の誕生を祝う仏生会などの年中行事や、高僧や天皇の訪問といったイベントでも上演されました。とくにしられるのは天平勝宝4年（752）に行われた東大寺大仏の開眼供養で、東大寺と正倉院にはこの時につくられた伎楽面が残ります。一方、法隆寺にはこれを遡る飛鳥時代の伎楽面が伝えられましたが、明治11年（1878）に他の宝物とともに皇室へ献上され、現在は法隆寺献納宝物として当館に収蔵されており、クスノキ製とキリ製、麻布と漆で成形した乾漆製の3種類が含まれます。とりわけクスノキ製面は現存最古の伎楽面として貴重で、これらを含む伎楽面31面が、このたび一括して国宝1件に指定されることが決まりました。

本作品は、鼻が高く、赤い顔が特徴的です。こうした仮面は治道とよばれ、獅子やこれを先導する子どもを表した師子児とともにあらわれ、伎楽の開幕を告げる役割があったようです。法隆寺伝来面のうち、獅子は失われたようですが、今日まで各地で演じられる獅子舞のなかで、天狗との闘いが含まれる構成の源流とも考えられます。残念ながら、中世以降衰退してしまった伎楽の詳細はしられておらず、演目の内容や仮面の名称にも諸説あります。本作は、治道と同じく鼻が高く、酒に酔った西アジアの王を表す酔胡王にあたる可能性もあり、今後の研究が待たれます。赤い彩色や、髪の毛など繊細な描写も残るため、保存環境に配慮して毎週金・土曜日に限っての公開ですが、ぜひご覧いただければ幸いです。　（西木政統）

INFORMATION【インフォメーション】

●開館時間
9時30分～17時00分
毎週金・土曜日、7月20日(日)、8月10日(日)は9時30分～20時00分
黒田記念館は9時30分～17時00分
※入館は閉館の30分前まで。

●6・7・8月の休館日情報
◎6月2日(月)、9日(月)、16日(月)、23日(月)、30日(月)
◎7月7日(月)、14日(月)、22日(火)、28日(月)
◎8月4日(月)、18日(月)、25日(月)
※8月12日(火)は臨時開館します。
※特別展、東博コレクション展(旧総合文化展)、催し物につきましては、今後の諸事情により予告なく変更する場合がございます。最新情報は、当館ウェブサイトなどをご覧ください。

●観覧料金
一般1,000円、大学生500円
障がい者とその介護者各1名は無料。
満70歳以上、高校生以下および満18歳未満の方は無料。
特別展などの開館日・開館時間、観覧料金は別途ご確認ください。
東京国立博物館 ウェブサイト
https://www.tnm.jp/

●賛助会のご案内
東京国立博物館の運営趣旨にご賛同いただける方を対象とした寄附会員制度です。個人と団体向けに、それぞれ寄附金額に応じた特典をご用意しています。

●7月25日(金)と26日(土)の2日間、キッズデーを開催します!
今回は、特集「金工動物園」(→3ページ)に関連して、動物の形をした美術・工芸作品を紹介するプログラムも予定しています。お子さまとぜひご参加ください。詳細は、決まり次第当館ウェブサイトに掲載します。

1月のキッズデー「東博雪見　雪のもようでデザインしよう」の様子

●託児サービスのご案内
正門プラザ内託児室にて、託児サービスを実施しています(有料。事前予約制)。

●特別展チケットプレゼント
特別展「運慶 祈りの空間ー興福寺北円堂」(→5ページ)の無料観覧券(10組20名様)をプレゼントします。締切は9月10日(水)必着。
＊プレゼントの応募方法　はがきに郵便番号、住所、氏名(ふりがな)、年齢、ならびにこの号で一番おもしろかった記事をご記入のうえ、下記までお送りください。発表は発送をもって代えさせていただきます。
〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9 東京国立博物館 広報室「ニュース6-8月号」プレゼント係

※広告掲載についてのお問合わせは東京国立博物館広報室まで

東京国立博物館ニュース 第781号　2025年5月20日発行(年4回発行)
編集／東京国立博物館 広報室 © 東京国立博物館　発行／東京国立博物館 〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9　制作／株式会社 メディア グラフィックス
ウェブサイト https://www.tnm.jp/　独立行政法人国立文化財機構ウェブサイト https://www.nich.go.jp/